

JSPCCS-JCC Joint Session

Thu, Jul 9, 2026 2:30 PM - 4:00 PM JST | Thu, Jul 9, 2026 5:30 AM - 7:00 AM UTC | Room2 (Conference Hall B1)

[JCCJS] JSPCCS-JCC Joint Session (I-JCCJS)

先天性心疾患術後遠隔期のaortopathyとその管理

座長:丹羽 公一郎(千葉市立海浜病院 循環器内科成人先天性心疾患診療部)

座長:齋木 佳克(東北大学)

[I-JCCJS-2] JROAD-DPCデータから見た先天性心疾患関連Aortopathyの成人期診療実態

○町野 智子¹, 川松 直人¹, 矢野 悠介², 野崎 良寛², 村上 卓², 石津 智子¹ (1.筑波大学 循環器内科, 2.筑波大学 小児科)

Keywords : Aortopathy、大動脈解離、大動脈瘤

先天性心疾患では、大動脈拡大や大動脈解離などのaortopathyが遠隔期合併症として重要な問題となるが、本邦における成人期の実臨床データは限られている。

本研究では、全国の循環器入院データベースであるJROAD-DPCを用い、2013年から2022年までの成人先天性心疾患の入院84669例を抽出し、解析を行った。Aortopathy関連の各先天性心疾患における、大動脈解離による入院数（全入院に占める割合）/入院中死亡率、また大動脈瘤による入院数（同割合）は以下の通りであった。二尖大動脈弁：59 (1.8%)/8.5%・

982(30.6%)、大動脈縮窄：11 (1.3%)/9.1%・93 (10.9%)、Fallot四徴症：3 (0.04%)/33.3%・46 (0.7%)、完全大血管転位：0 (0%)/0%・14 (0.7%)、総動脈幹症：0 (0%)/0%・1 (0.4%)、左心低形成症候群：0 (0%)/0%・3 (1.2%)、単心室症：3 (0.06%)/0%・29 (0.6%)、心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖：2 (0.6%)/0%・1 (0.3%)であった。大動脈解離の約半数をStanford A型解離が占めていた。また大動脈瘤に対する手術を施行された469例のうち、開胸・開腹手術は318例

(67.8%)、ステントグラフト術は112例 (32.2%)であり、院内死亡率はそれぞれ4.1%および2.7%であった。大動脈瘤病名を有する症例においては8割以上で何らかの降圧薬が処方されており、カルシウム拮抗薬、RAS系阻害薬、β遮断薬の処方率はそれぞれ61%、41%、55%であった。観察期間中、全入院に占める大動脈イベントによる入院の割合は1.5-2%程度で推移し、経時的な変化を認めなかった。

本発表では、ACHD関連aortopathyにおける大動脈イベントおよび治療実態を概観し、先天性心疾患術後遠隔期におけるaortopathy管理の現状と今後の課題について考察する。